

心理学

ナンバリング:N1-L1-Z06

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	1	区分/単位数	講義/1単位
期間	前期		

・学修方針(講義概要等)

心理学は「こころ」の科学的理解を通して人間を探究する学問であり、実験、調査、観察および事例研究等を通した人間行動解明へのアプローチがなされる。本科目においては、心理学の歴史を学ぶと同時に、基礎と応用の両視野から理解する。そして学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、産業心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きおよび行動への影響を考える。本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付ける。
--

・教育成果(アウトカム)

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学び、ものごとを心理学的視野により説明することができる。 2. こころと行動の理解を通して、個人・社会において生じる現象を相互作用的にとらえ、説明することができる。 3. 見えない“こころ”を理解するための多様な方法を学び、現象の背景を探究するための視点を獲得することができる。	
【学位授与方針と当該授業科目との関連】 本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。	
1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解し、説明できる。 2. こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様な視点を身につけることができる。 3. 個人と他者、個人と集団の相互作用とコミュニケーションについて理解し、説明ができる。 4. 自分の「こころ」への興味関心を高く保つことができる。 5. 多様な価値観や人生観を有している人々を尊重する行動をとることができる。 6. 集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。 7. 人的・物理的環境が健康に及ぼす影響について説明できる。 8. 職場の特性や健康課題を把握する方法について説明できる。 9. 個人・家族・地域のメンタルヘルスを促進する取り組みについて説明できる。 10. ストレスの原因と健康との関連について説明できる。

・授業日程

【講義】 会場：西1-A講義室		
月日 曜日 時限	授業内容/到達目標	担当教員
4/17 木 3限	【授業内容】#1 心理学とその歴史 1. 心理学の誕生までの歴史を説明することができる。 2. 見えない“こころ”へのアプローチ法について、述べることができる。 [双方向授業][ICT(Mentimeter, WebClass)] 【関連する到達目標(SBO)】2、4 【事前学修:60分】教科書1～12ページを読む。 【事後学修:90分】WebClassの#1ワークに取り組む。講義資料を復習する。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授

4/22 火 3限	【授業内容】#2 心理学という「学習」について 1. 心理学の「学習」の定義を述べるができる。 2. 古典的条件づけについて説明できる。 3. オペラント条件づけについて説明できる。 4. 行動主義とそれまでの心理学との関係について、述べるができる。 【双方向授業】[ICT(WebClass)] 【関連する到達目標(SBO)】1、4 【事前学修:60分】前回講義で出された課題に取り組む。 【事後学修:90分】WebClassの#2ワークに取り組む。講義資料を復習する。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授
5/8 木 3限	【授業内容】#3 認知心理学-特に記憶について 1. 認知理論が重視されるようになった経緯を説明できる。 2. 記憶のモデルについて説明できる。 3. Millerの直接記憶範囲について説明できる。 4. 知覚的防衛について、説明できる。 【双方向授業】[ICT(WebClass)] 【関連する到達目標(SBO)】1、4 【事前学修:60分】前回講義で出された課題に取り組む。 【事後学修:90分】WebClassの#3ワークに取り組む。講義資料を復習する。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授
5/16 金 1限	【授業内容】#4 社会心理学の視点から「集団」を考える 1. 認知的一貫性理論について、身近な例を当てはめ説明することができる。 2. 同調行動について、説明できる。 3. パーソナル・スペースについて、説明できる。 【ICT(WebClass)】 【関連する到達目標(SBO)】3、4、6 【事前学修:60分】教科書182～195ページを読む。 【事後学修:90分】WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授
5/23 金 1限	【授業内容】#5 臨床心理学の基礎 1. 臨床心理学の歴史を説明できる。 2. 臨床心理学の主要4領域を述べるができる。 3. 愛着について、説明できる。 4. 多職種連携にかかわる心理職(公認心理師・臨床心理士等)の職能について理解し、説明できる。 【ICT(WebClass)】 【関連する到達目標(SBO)】5、9 【事前学修:60分】教科書116～124ページを読む。 【事後学修:90分】講義資料を復習する。 形成的評価:WebClassによる「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授
5/30 金 2限	【授業内容】#6 ストレスの心理学 1. ストレスの定義を述べるができる。 2. ストレスに関するこころと身体の相関性を説明できる。 3. 心理的ストレスプロセスモデルについて説明できる。 【双方向授業】[ICT(WebClass)] 【関連する到達目標(SBO)】7、9、10 【事前学修:60分】現代人のストレスについて、インターネットで調べる。 【事後学修:90分】WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。 WebClassの#6ワークに取り組む。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授
6/6 金 1限	【授業内容】#7 働くことの心理学 1. 職業性ストレスモデルについて説明できる。 2. パーンアウトについて説明できる。 3. ワーク・エンゲイジメントについて説明できる。 4. ワークライフバランスについて、自身の意見を述べるができる。 【双方向授業】[ICT(Mentimeter, WebClass)] 【関連する到達目標(SBO)】7、8、9、 【事前学修:60分】仕事におけるストレスについてまとめる。どういう職場環境で働きたいかまとめる。 【事後学修:90分】WebClassの#7ワークに取り組む。講義資料を復習する。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授
6/13 金 1限	【授業内容】#8 思春期青年期の理解 1. 思春期と青年期の概念を理解し、述べるができる。 2. 青年期の発達課題を理解し、説明することができる。 3. アイデンティティの確立について理解し、これからの学生生活に活かせる視点を列挙することができる。 【関連する到達目標(SBO)】2、5 【事前学修:60分】教科書126～130ページを読み、まとめる。 【事後学修:630分】講義資料を復習する。定期試験に向けて総復習をおこなう。	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授

・教科書・参考書等		教：教科書	参：参考書	推：推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	図説心理学入門 第2版	齊藤勇	誠信書房	2005
参	心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで	越智啓太	創元社	2016

・成績評価方法

【総括評価】 前期試験成績を80%、講義中・後に実施するワーク(課題)への取り組みを10%、確認テスト(4回目、6回目)の成績を10%として評価する。前期試験はMCQ：多肢選択式問題と論述問題を出題する。ワーク(課題)への取り組みは、提出(入力)された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「ワーク(課題)評価基準」に従い採点する。 【形成的評価】 5回目の講義にてWebClassより「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果はWebClassからフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。またWebClassによるワークやコメント入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。 WebClassでの確認テストを実施する回を設定する。結果はWebClassにてフィードバックする。 講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeterを使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PCのいずれでも参加可能である。 定期試験後にフィードバックとしてWebClassを通じた解説もしくは補講を実施する。 【その他】 ・学生からの授業に対する質問・意見については、WebClassメッセージより随時受け付ける。 ・授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。 ・ワークや確認テストの期日は、講義当日中を基本とする。 ・成績開示方法：成績確定後、希望者には結果開示と講評をおこなう。 【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3)：基礎分野 人間と生活・社会の理解 【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有 保健・医療・福祉・学校臨床現場での実務経験をもつ公認心理師・臨床心理士有資格教員が、心理学の知識の応用について、実践例に基づきながら講義をおこなう回が含まれる。
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影
講義	DVD(ブルーレイおよび一般DVD)再生機器	1	講義用資料投影
講義	ノート型PC(MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	デスクトップPC(iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成